

ニコライ ニコラエヴィチ プラビルスチコフ先生の逝去

林 匡 夫

昆虫団体研究会の溝口修氏の好意で近着のソ連邦昆虫学評論41巻3号(1962)に、ソ連邦における著名な昆虫学・博物館学の権威で天牛学の才1人者、プラビルスチコフ先生が1962年2月7日モスクーにおいて病没された記事を読み、全く突然のことで吃驚した。実は今から思えば逝去の直前、同先生から大きな航空小包便で論著多数を送つて頂いて2月6日に落手しており、著書にはそれぞれ、同年1月17日の日付入りで力のこもつた達筆でサインされていて、上述の記事をみるまでは、お年は召していても極めて元気に活躍されているものとばかり信じきつていただけに一旦その驚きは深い、ここには先年松下真平、玉貫光一両氏によるものと、今回O. L. クリザノフスキー氏による前述誌所載の一文によつて、プラビルスチコフ先生の経歴と業績の一端を回想してみたいと思う。

Prof. Dr. Nikolai Nikolaevitsch Plavilstshikov (1892—1962)
1892年5月30日17時(17日ともいう)、モスクーに生れる。曾祖父Peter(1760—1812)はロシアにおける最初の悲劇俳優兼劇評家として著名であり、父Nikolaiは化学技師で、1918年迄モスクーとイワノボポズネセンクにあるレペスチキン化学工場の責任者であつた。

1911年、モスクー才6高等学校(ギムナジウム)を卒業、モスクー大学の自然科学科に入学動物学を専攻し、昆虫学のゼミナール(指導教授G. A. コツエフニコフ)をとつた。

1917年、ドクトルの称号を得、1918～1920年モスクー動物学博物館学芸員。

1919年～1921年モスクー大学動物学講座助手、1920～1923年才4高等工芸学校上席委員及びカール・マルクス研究所生物学教授、1924～1928年モスクー・ブレチャノフ高等工芸学校校長、1929～1931年ブレチャノフ大学一般生物学教授・生物学主任、1931年以降、モスクー工業師範大学一般生物学教授、1933年以降リヤサン師範大学動物学教授、1933

～1941年ロシア共和国科学院動物学研究所勤務、1943～1959年モスクー大学動物学博物館の自然部の最高責任者として、博物館学・地理学を指導、又1946年以降、昆虫学部長・展示部長として事実上博物館の活動の中心的存在であつた。

先生は青年時代各地に採集旅行を行ない、研究資料を蒐集する傍ら、主として天牛類の研究に精進、その報告は多数に上つているが、著名なものとしてはReittrの懸賞論文に応じたAgapauthia属の検索、欧州産甲虫類の検索中の天牛科1～3及び大著ソ連邦動物相天牛科(1936、1940、1958)などがあり、更にその外4冊目(太天牛亜科の後半及び既刊分の追加、訂正)の原稿は殆んど完成されていた由である。又他に森林害虫に関する大著もあり、別に晩年は青少年向きの各種教科書、啓蒙的解説書多数を執筆大いに活躍されていた。私にも若干贈られてその内容を知る機会を得たが、美しく且かなり程度の高い内容のもので感心した。ここにその御生涯をかえりみ、業績に親しく接して、今更偉大な学者を失つたものと心から痛惜にたえない次才である。

昆虫学評論第16巻の会費を御納入下さい

昆虫学評論第15巻第2号でアナタの会費は終了いたしました。今春来印刷費が大巾に値上りしましたので、やむなく第16巻より **750** 円に改訂いたします。第14巻より値上げの際にはすでに値上げせねばならなかつたのですが、郵送料だけの値上げに止め印刷費は据置きましたので、今回やや高率の値上りとなりました。以上御諒察の上第16巻会費は遅くとも昭和38年10月末日までに当会事務所宛御納入下さい。

第16巻から1巻につき750円です

新入会員

368
369
370
371
372
373
374
375
376

377

378

379

住所変更

305

330

162

337

321

222

25

268

209

68

253

255

269

221

161

160

362

改正及び住所変更

270

申告退会

認定退会 (1963.4.1.)

第15回大会のお知らせ

昭和38年度大会を次の日時に実施します。会員各位の御参加をお待ちします。

日・時：昭和38年11月17日(茅3日曜日) 午後1時より

場 所：大阪市東区 追手門学院高等部(1階階段教室)

なお、大会終了後有志による懇親会(350円程度)を大手前会館食堂にて開催する予定です。

昭和37年度収支決算書

自昭和37年11月1日

至昭和37年12月31日

収入の部		支出の部	
会費	172,540-	印刷費	172,762-
パンクナンバー代	29,100-	通信費	23,145-
別刷代	15,805-	消耗品費	1,860-
図鑑印税	92,546-	大会・例会費	11,135-
大会・例会会費	9,300-	幹事会費	2,530-
雑収入	30,312-	雑費	150-
前期繰越金	262,325-	会報発行基金	150,000-
		次期繰越金	250,346-
合計	611,928-	合計	611,928-

会報発行基金 150,000- (三井信託銀行大阪支店金銭信託)

志賀昆虫普及社製品のあつせん

志賀製品の取扱いを始めて大変好評ですが、材料代や職人手間賃の高騰で相当値上りしています。個人で注文されてもこの上に荷造費・送料が相当高くなりますので、出来るだけ当会を御利用下さい。相当量注文して手持ちしていますので、定価にてお買求め願えます。

インロー型標本箱	大型 36×27Cm (総桐製 厚コルク敷 一級品)	1箱	560円
"	小型 31 ⁵ ×22Cm (" ")	1箱	380円
携帯用標本箱	(ポケット型) 17×10Cm (総桐製)	1箱	120円
シガ昆虫針	(ステンレス製無頭) 1・2・3各号	100本1包	1包 70円
吸虫管	(ゴム管付二重式)	1本	160円
ピンセット	(ステンレス製先尖)	1本	250円
ルーペ	(金属菱形繰出し) 正10倍	1ヶ	600円
平均台	小型	1ヶ	85円

この外予め御依頼下されば、当会から注文の都度取寄せます。現品は芝田太一氏宅(大阪市東区淡路町4丁目68 芝田ビル 電話:231局8765)にありますから、必ず風呂敷か包装用具を御持参でお越し下さい。なお標本箱は一人で持てる範囲(インロー小型で10箱程度)で分割購入をお願いします。

訂正……編輯の手違いがありましたので、ねじればね、通巻15号の巻号をVOL. VII, No 3と訂正します。17号に既刊号の一覧表をお知らせいたす予定です。